

対象	小学校低学年以上
教科	生活科
該当 単元	小学2年 「はじめての 野さいづくり」 ・わたしたちも そだてたいな
教科書	日本文教出版等
掲載日	2019.5.9. 朝刊 福井嶺南版

○記事を読んでもらってから

写真をよく見て間に答えましょう。

問1：写真の子たちはひとり

何本の苗を植えたのでしょうか。

()本

問2：右の子と左の子の植え

方のちがいは、どんなところですか。

右の子→苗を

()植えている

左の子→苗を(

)植えている

問3：植え方がちがうと育つサツマイモにどんなちがいができるのでしょうか。

①の植え方と②の植え方について答えましょう。

①苗を真っすぐに植えると→(

)ができる

②苗を斜めに植えると→(

)ができる

発展：あなたは野菜を育てたことが

ありますか。あれば、育てた野菜

の名前と感想を書きましょう。

真剣な表情でサツマイモの苗を植えていく子どもたち=4日、若狭町生倉で



サツマイモ収穫楽しみ

若狭町三方地区のきらやま子ども会の児童二十二人が、同町生倉の畑でサツマイモの苗植えを体験した。畑を管理する地元の観音川営農組合のメンバーで、子ども会副会長の岩田竹矢さん(四六)が「真っすぐに植えると大きく、斜めに植えるとたくさんサツマイモができて...」などと指導。子どもたちは竹で畑の畝に穴を開けて、一人五本ずつ丁寧に苗を植えていった。児童たちは当番制で苗の手入れをして、十月に収穫する予定。三方小六年の田辺実夢さん(一〇)は「苗を真っすぐに植えるのが難しかったけど、収穫が楽しみ」と期待を膨らませていた。(高野正憲)

若狭で子どもら苗植え

【活用にあたって】

私の教師時代の経験からすると、児童は栽培活動が大好きだといえます。世話は大変でも実がなったり花が咲いたりすることに喜びを感じるからでしょう。特に地中に実るジャガイモやサツマイモを掘り、連なって地中から顔を見せる時の児童らの歓声は際立ちます。

学習指導要領解説、生活科の中には「自然や生命に接する機会が乏しくなっている現状を踏まえ、(中略)指導の充実に向けた配慮が求められている」とあります。

こうした児童の体験記事を利用して疑似体験することで学びの幅も広がると思います。低学年対象ですので、記事は説明を加えながら読んであげてください。

解答例

問1 : 5

問2 : 右の子→真っすぐに

左の子→斜めに

問3 : ①大きなサツマイモ

②たくさんのサツマイモ

発展 : 幼稚園や保育園での栽培体験、家庭菜園の経験、祖父母の手伝いなど、書こうとする意欲を評価しましょう。